♪ Joyful Male Chorus ♪

『男声合唱を楽しむ会』

第7回サロンコンサート

夏合宿　ひるがの高原　8月4日～5日
民宿『からまつ荘』の前で

指　揮　向川原 慎一
　　小平 康義
ピアノ　早瀬 洋子
司　会　伊藤 春雄

2012年 10月 14日（日）

開場 13:00　開演 13:30

名古屋市熱田文化小劇場

主催　男声合唱を楽しむ会

http://www.tanosimu-dg.org/

《 ご 挨 拶 》

本日は第7回「男声合唱を楽しむ会コンサート」にご来場いただき、誠に有難うございます。
ご来場の皆様に落ち着いて聞いていただけるよう、昨年の第6回から、この「熱田文化小劇場」にて開催することといたしましたが、今年はクジ運に恵まれて10月の本日開催できることとなりました。
このため、昨年の12月に実施した第6回に比べて、練習できる期間が短いので、臨時練習を多く取り入れたハードスケジュールでしたが、少しでも良い演奏ができるよう団員一同、団名の如く、楽しみながら(？)頑張って来ましたので、その成果をお聞き下さい。

毎年のことながら、指揮者の向川原さんとピアニストの早瀬さんにもハードスケジュールに対応して、熱心にご指導をしていただき、何とか楽しく聴いていただけるであろうレベルまで我々を引っ張って下さったことに対して、改めて厚くお礼申し上げます。
また、賛助出演を心よくお引き受け下さり、このコンサートに花を添えていただく、混声合唱団 レ・マーニの皆様にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。

今回のプログラムは、皆さん、良くご存知の曲を、向川原さんが我々のために難しく編曲された曲など、バラエティに富んでいて楽しくお聞きいただけると思います。
どうぞ、最後までごゆっくりとお聞きいただき、私どもの今後の活動に役立つ辛口の「アンケート」をいただければ幸いでございます。宜しくお願い申し上げます。

会長　藤野　倫男

《 プロフィール 》

◆指揮　向川原(むかいがわら)　慎一

早稲田大学卒業。長年にわたり合唱指揮・合唱指導を行い、現在も名古屋市を活動拠点としていくつかの団体の指揮者を務める。
さらに、歌曲を中心とした作曲活動を続け、2007年の奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門(中田喜直賞の部)では2曲が本選に進み、優秀賞と入選を得た。
また、合唱編曲ではカワイ出版から「混声合唱のための5つのトスティ歌曲」と「ドボルジャークのジプシーの歌」が出版されている。
小林研一郎氏に師事。

♥ピアノ　早瀬　洋子

愛知教育大学音楽科、同大学院修了。
在学中より名古屋二期会、名古屋オペラ協会、名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団、三重オペラ協会、岐阜県産業文化振興事業団、名古屋芸術大学、長久手オペラレクチャーコンサートなどで多数のオペラ、オペレッタ、ミュージカルの稽古ピアニスト、コレペティトゥーア、ピアノ公演ピアニストを務める。
伴奏ピアニストとして活動する傍ら、コーラス指導も手がける。また名古屋芸術大学では長年にわたり、オペラの授業助手を担当している。

♠司会　伊藤　春雄

三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所に入社。
退社後、東海ラジオ『さん！さん！モーニング』を始め、岐阜放送、CBCラジオなど、数多くのパーソナリティを務める。
また鈴鹿サーキットで30年以上にわたってF1をはじめフォーミュラニッポン等のレースアナウンサーを担当。最近は地元にコミュニティFM放送局を設立するために活動している。

プログラム

♪オープニング

♪第1ステージ　男声合唱愛唱曲から　指揮:向川原 慎一

菩提樹 ……ミュラー 作詞　シューベルト 作曲　近藤 朔風 訳詩　向川原 慎一 編曲
ローレライ……ハイネ 作詞　ジルヘル 作曲　近藤 朔風 訳詩　福永 陽一郎 編曲
子守唄 ……作詞(不詳)　ブラームス 作曲　堀内 敬三 訳詩　向川原 慎一 編曲
野ばら……ゲーテ 作詩　ウエルナー 作曲　近藤 朔風 訳詩　シット 編曲
セレナーデ(ボーカリーズ)……モーツアルト 作曲　向川原 慎一 編曲

♪第2ステージ《賛助出演》

混声合唱団 レ・マーニ　指揮:照喜名 一男　伴奏:森野 なおこ

混声合唱とピアノのための 花によせて……星野 富弘 作詞　新実 徳英 作曲
i たんぽぽ　ii ねこじゃらし　iii しおん　iv つばき・やぶかんぞう・あさがお
v てっせん・どくだみ　vi みょうが　vii ばら・きく・なずな

＝ 休 憩（15分）＝

♪第3ステージ　My song, Your song　/　みんなで歌おう

指揮:小平 康義　ピアノ:早瀬 洋子

この広い野原いっぱい……小園江 圭子 作詞　森山 良子 作曲　広石 徹 編曲
まっかな秋……薩摩 忠 作詩　小林 秀雄 作曲
旅愁……犬童 球渓 作詞　オードウエイ 作曲　清上 日出夫編曲

♪第4ステージ　男声合唱組曲「信濃路の秋」　指揮:小平 康義

向川原 慎一 編曲

柿もみじ……佐藤 春夫 作詞　小山 章三 作曲
秋 ……柳沢 建 作詞　小山 章三 作曲
晩秋 ……林 柳波 作曲　小山 章三 作曲

♪第5ステージ　男声合唱組曲『筑後川』　指揮:向川原 慎一　ピアノ:早瀬 洋子

……丸山 豊 作詞　團 伊玖磨 作曲　向川原 慎一 編曲
I みなかみ　II ダムにて　III 銀の魚　IV 川の祭　V 河口

♪合同演奏「水のいのち」から「5. 海よ」　指揮:向川原 慎一　ピアノ:早瀬 洋子

……高野 喜久雄 作詞　高田 三郎 作曲

男声合唱を楽しむ会 レ・マーニ 愛知万博／ファミリー合同練習会による合同演奏

♪全員合唱「里の秋」……斎藤 信夫 作詞　海沼 実 作曲　福永 陽一郎 編曲

賛助出演　混声合唱団　レ・マーニ

指揮者：照喜名　一男

立命館大学法学部卒業。名古屋音楽短期大学（現、名古屋音楽大学）器楽科卒業。チェロを（故）上村正雄、星野明道、松下修也の各氏に、指揮を横井園生氏に師事。「海部交響楽団」「混声合唱団 レ・マーニ」「女声合唱レ・マーニ」「美和エコー」「ちいちの華の会」「エレガント」などを指揮、海部交響楽団演奏会、美和エコー演奏会など数多くの演奏会に出演し幅広く活躍。名古屋音楽大学名誉教授。

ピアノ：森野　なおこ

愛知県立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。新人演奏会、New Artist Classic Stage、ジョイントリサイタルに出演。声楽、合唱ピアニストとして各種演奏会に出演。大江輝恵、樋上真理子、宇都宮淑子各氏に師事。

混声合唱団　レ・マーニ　あゆみ

1996年発足、1998年に第1回演奏会、2010年に第4回演奏旅行を行う。
これまでに、ウーヴェ・コミシュケトランペットコンサート、タイムファイブクリスマス ステージ、レ・マーニ7周年コンサート～テノール二神二朗氏を迎えて～
畑儀文ジョイントコンサートなどに数多く出演。
また合唱祭 inTOGO に参加するなど地域に根ざした活動を行っている。

出演者名簿

ソプラノ：浅井乙美　天野千代　内川富美子　片岡有美子　片山さよみ　佐藤まゆみ　真野月子
アルト：浅井淳子　大島尚子　大藪長子　郡山洋子　白柳みと代　牧野直子　早田芳子
藤田文子　細谷和子
テノール：青島ゆみを　井奥博之　合瀬弘正　種子田實郎　広瀬淑之
バス：木村幹夫　田中昭　塚原徹也　永井信介　藤掛富夫　渡辺喜久

第2ステージ『花によせて』 星野 富弘作詞　新実 徳英作曲

星野富弘さんの詩画集『風の旅』（立風書房）との出会いは私にとって一つの衝撃であった。
丹念な筆致と美しい色彩による花の数々、そしてそれらの花に投影された彼の優しく強い言葉の数々、どれもこれもとても感動的であった。しかも、その全ては手足の自由を失った一人の男が口に筆をくわえて成しとげたものなのである。
生きる希望、生きる勇気を与えることこそ芸術の存在理由だと私は信じているのだが、この詩画集の著者はまさにそれを私に与えてくれた。
すぐさまこれを混声合唱組曲に仕立て上げようと決心した。（中略）
どの曲も作者の心に沿ってできるだけ素直に自然に作曲したつもりである。歌う人聞く人の心に真っ直ぐに入り込んでいく組曲として育っていくよう願っている。（後略）

1986年7月東京・東中野にて　新美徳英

《 歌 詞 》

第1ステージ『男声合唱愛唱曲から』

1. 菩提樹

泉に沿いて 繁る菩提樹
慕い行きては うまし夢みつ
幹には彫りぬ ゆかし言葉
うれし悲しに 訪いしそのかげ

今日もよぎりぬ 暗き小夜中
真闇に立ちて 眼 とずれば
枝はそよぎて 語るごとし
「来よ いとし侶 ここに幸あり。」

面をかすめて 吹く風寒く
笠は飛べども 棄てて急ぎぬ

はるか離りて 佇まえば
なおも聞こゆる「ここに幸あり。」

はるか離りて 佇まえば
なおも聞こゆる「ここに幸あり。」
「ここに幸あり。」

2. ローレライ

なじかは知らねど こころわびて、
昔の伝説は そぞろ身にしむ。
侘しく暮れ行く ラインの流れ
入日に山々 あかく映ゆる。

美し少女の 巌岩に立ちて、
黄金の櫛とり 髪のみだれを、
梳きつつ口吟む 歌の声の、
神怪き魔力に 魂もまよう。

漕ぎ行く舟びと 歌に憧れ
岩根も見やらず 仰げばやがて、
浪間に沈むる ひとも舟も、
神怪き魔歌 謡うローレライ。

3. 子守唄

眠れよ吾子 汝をめぐりて
美しの 花さけば
眠れ、今は いとやすけく
あした窓に 訪いくるまで。
Guten Abent, gute Nacht.

眠れよ吾子 汝が夢路を
天つ使い 護りたれば
眠れ、今は いと楽しく
夢の園に ほほえみつつ。
Guten Abent, gute Nacht.

4. 野ばら

童はみたり 野なかの薔薇
清らに咲ける その色愛でつ
飽かずながむ
紅におう 野なかの薔薇

手折りて往かん野なかの薔薇
手折らば手折れ 思出ぐさに
君を刺さん
紅におう 野なかの薔薇

童は折りぬ 野なかの薔薇
折られてあわれ 清らの色香
永久にあせぬ
紅におう 野なかの薔薇

5. セレナーデ
（ボーカリーズ）

第2ステージ 『花によせて』

i たんぽぽ

いつだったか
君たちが空をとんで行くのをみたよ
風に吹かれて
ただ一つのものを持って
旅する姿が
嬉しくてならなかったよ
人間だってどうしても必要なものは
ただ一つ
私も余分なものを捨てれば
空を飛べるような気がしたよ

ii ねこじゃらし

思い出の向こう側から
一人の少年が走ってくる
あれは白い運動ぐつを
初めて買ってもらった日の
私かも知れない
白い布に草の汁を飛び散らせながら
あんなにも あんなにも嬉しそうに
今に向かって走ってくる

iii しおん

ほんとうのことなら
多くの言葉はいらない
野の草が
風にゆれるように
小さなしぐさにも
輝きがある

iv つばき・やぶかんぞう・あさがお

木は自分で 動きまわることができない
神様に与えられたその場所で
精一杯枝を張り 許された高さまで
一生懸命伸びようとしている
そんな木を 私は友達のように思っている

いつか草が風に揺れるのを見て
弱さを思った
今日 草が風に揺れるのを見て
強さを知った

一本の茎が 一本の棒を登って行く
棒の先には夏の空
私も あんなふうに登って行きたい

v てっせん・どくだみ

花は自分の美しさを
知らないから 美しいのだろうか
知っているから 美しく咲けるのだろうか

おまえを大切に摘んでゆく人がいた
臭いといわれ
きらわれ者のおまえだったけれど
道の隅で
歩く人の足許を見上げ
ひっそりと生きていた
いつかおまえを必要とする人が
現れるのを待っていたかのように
おまえの花
白い十字架に似ていた

vi みょうが

畑の草を一日中むしり
かいこに桑をくれ
夕方ひょいと出かけてみょうがをとり
それを売っては
弁当のおかずを買ってきてくれたっけねぇ
いつもしょっぱいこぶのつくだ煮
花の咲いたやつは安くなるからと
花を抜いて売ったこともあったよね
もんぺと地下たびの間は
蚊にさされた跡がいっぱいだった
かあちゃん
みょうがを食うとばかになるというけれど
おれは
思い出すことばっかりです

vii ばら・きく・なずな

淡い花は 母の色をしている
弱さと悲しみが 混じりあった
温かな 母の色をしている
母の手は 菊の花に似ている
固く握りしめ
それでいてやわらかな
母の手は 菊の花に似ている
神様がたった一度だけ
この腕を動かして下さるとしたら
母の肩を たたかせてもらおう
風に揺れる
ぺんぺん草の実を見ていたら
そんな日が
本当に来るような気がした

第3ステージ　My song, Your song ／ みんなで歌おう

1. この広い野原いっぱい

この広い野原いっぱい　咲く花を
一つのこらず　あなたにあげる
赤いリボンの花たばにして

この広い夜空いっぱい　咲く星を
一つのこらず　あなたにあげる
虹にかがやく　ガラスにつめて

この広い海いっぱい　咲く船を
一つのこらず　あなたにあげる
青い帆に　イニシャルつけて

この広い世界中の　何もかも
一つのこらず　あなたにあげる
だから私に　手紙をかいて
手紙をかいて

2. まっかな秋

まっかだな　まっかだな
つたの葉っぱが　まっかだな
もみじの葉っぱも　まっかだな
沈む夕日に　てらされて
まっかなほっぺたの　君と僕
まっかな秋に　囲まれている

まっかだな　まっかだな
からすうりって　まっかだな
とんぼのせなかも　まっかだな
夕焼雲(ゆうやけぐも)を　ゆびさして
まっかなほっぺたの　君と僕
まっかな秋に　よびかけている

まっかだな　まっかだな
ひがん花って　まっかだな
遠くのたき火も　まっかだな
お宮の鳥居を　くぐりぬけ
まっかなほっぺたの　君と僕
まっかな秋を　たずねてまわる

3. 旅愁

ふけゆく秋の夜　旅の空の
わびしき思いに　ひとりなやむ
恋しやふるさと　なつかし父　母
夢路にたどるは　故郷(さと)の家路
ふけゆく秋の夜　旅の空の
わびしき思いに　ひとりなやむ

窓うつ嵐に　夢もやぶれ
遥(はる)けきかなたに　心まよう
恋しやふるさと　なつかし父　母
思いに浮ぶは　森のこずえ
窓うつ嵐に　夢もやぶれ
遥(はる)けきかなたに　心まよう

第4ステージ　男声合唱組曲『信濃路の秋』

1. 柿もみじ

紅葉葉(もみじば)の　一夜(いちや)の霜に
名残(なごり)なく

地に散り敷けば　梢には
実のみ　残りて
秋空(あきぞら)は　鋼(はがね)に似たり

2. 秋

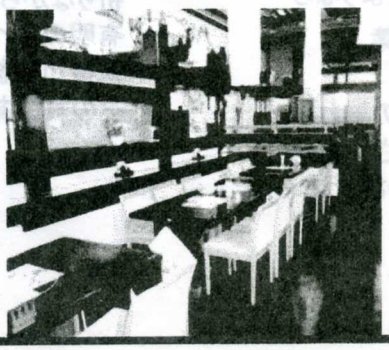
空のあお　空のあお
過ぎて行くとり

空しきなかを　明るき中を
過ぎて行くとり
我がこころ　我がこころ

3. 晩秋

山は三日月　河原は野菊
霜にしらじら　風がゆく
往(ゆ)くもかえるも枯野の道は
どこも淋しい　虫の声
煙　細々(ほそぼそ)　浅間の煙
夜の無声(しじま)を　揺れのぼる
やせて淋しい　唐松林
峠　夜霧の中に浮く

大切な方とくつろぎのひとときを。旬の味覚「蟹」に炭火焼が付いた大好評プラン!
忘新年会三会席得々プラン
おもてなし期間
本日より～
1月31日まで
かに料理
甲羅本店
10名様より無料送迎承ります。


白鳥甲羅本店
名古屋市熱田区白鳥一丁目6-12
☎(052)671-0608
営業時間／平日:午前11時30分～午後3時
午後5時～午後10時
日・祝:午前11時30分～午後10時
(オーダーストップ／午後9時30分)
年中無休
席料・サービス料・ご予約料等は一切無料です。
ご予約は最大60名様迄承ります
駐車場30台完備

地下鉄名城線 神宮西駅4番出口

第5ステージ　男声合唱組曲『筑後川』

Ⅰ　みなかみ

いまうまれたばかりの川
山の光は
小鳥のうぶ毛の匂。
若草と若葉のかさなりは
天へとつづくみどりの階段。

阿蘇外輪の春。
熔岩の寝床で
いま生まれたばかりの川

すがすがしい裸の愛が
頬をあからめて歌いだす。
素足でげんきよく走りだす。
さあ遠い旅行がはじまる。

けものの白い骨を
狩人の墓を洗い
森のくらさをおそれずに
滝の高さをおそれずに
さあ未知のくにぐにへの
旅行がはじまる。

Ⅱ　ダムにて

いそいそと瀬を走り
青葉をくぐり若葉をくぐり
もだえてみぎに左にうねり
愛のみずかさがふくらんだところで
非情のダムにせきとめられる。
川よ
愛の川よ
もっと深さをもつように。
もっと重さをもつように。
もっと冷静であるように。

不屈の決意をした青年です
いのちがけで愛するために。
見よ！　水面に映した
くれないの雲。
あなたを信じます。
あなたの愛を
ごらん！　魚たちの鰓(えら)呼吸の
おだやかさ。

川は
大きな川は
かがやく活路をさがしだす。
自然に育てられた愛が
筑後平野の
百万の生活のなかへ
歓喜の声をあげて走ってゆく。

Ⅲ　銀の魚

しずかにしずかに
楠の木かげを漕ぎだした
川の男の
たくましい胸板。

あたらしい棹(さお)を入れる
川の女の
清らかなうなじ。
朝の川面に
投網(とあみ)がふくらむ。

さざなみが湧く。
さざなみがひろがる。
深い川の深い心の
いきのよい魚をとらえるのだ。
朝日にはねよ銀の魚。

Ⅳ　川の祭

祭よ
川を呼びおこせ。
とっぷり暮れた大きな川へ
太鼓をたたけ。
太鼓をたたけ。
一千匹の河童よさわげ。
どどん　どどん
どどん　どどん

祭よ
川を呼びおこせ。
一万匹の河童よさわげ。
十万匹の河童よさわげ。
どどん　どどん
どどん　どどん

祭よ
愛を呼びおこせ。
はげしい愛を呼びおこし。
花火をあげよ。
花火をあげよ。
一万匹の河童よさわげ。
ぱぱん　ぱぱん
ぱぱん　ぱぱん

祭よ
愛を呼びおこせ。
十万匹の河童を
てらせ。
百万匹の河童を
てらせ。
ぱぱん　ぱぱん
ぱぱん　ぱぱん

Ⅴ　河口

終曲(フィナーレ)を
こんなにはっきり予想して
川は大きくなる
終曲を華やかにかざりながら
川は大きくなる
水底のかわいい魚たち
岸辺のおどけた虫たち
中州のかれんな小鳥たち

さようならさようなら
川は歌うさようなら
紅の櫨(はぜ)の葉
楠の木陰
白い工場の群れよ
さようならさようなら
川はうたうさようなら

筑後平野の百万の生活の幸を
祈りながら川は下る
有明の海へ
筑後川筑後川
その終曲あゝ

《合同演奏》 男声(混声、女声)合唱組曲「水のいのち」から

5. 海よ

ありとある 芥(あくた)
よごれ 疲れはてた水
受け容(い)れて
すべて 受け容れて
つねに あたらしくよみがえる
海の 不可思議
休みない 汀(なぎさ)
波の指 白い指 くりかえし
うまず くりかえし
億の砂 億の小石を
数えつづける
海の不可思議

くらげは 海の月
ひとでは 海の星
海蛍(うみぼたる) 海の馬 空にこがれ
あこや貝は 光を抱いている

そして 深く暗い 海の底では
下から上へ
まこと 下から上へ
雪は
白い雪は 降りしきる

おお 海よ
たえまない 始まりよ
あふれるに みえて
あふれる ことはなく
終るかに みえて
終ることもなく
億年の むかしも いまも
そなたは
いつも 始まりだ
おお 空へ
空の高みへの 始まりなのだ

のぼれ のぼりゆけ
そなた 水のこがれ
そなた 水のいのちよ

たとえ 己(おのれ)の重さに
逆(さか)らいきれず
雲となり
また ふたたび降るとしても

のぼれ のぼりゆけ
みえない つばさ
いちずな つばさ あるかぎり
のぼれ のぼりゆけ
おお

《曲目解説》混声合唱組曲『筑後川』(本日の演奏は男声合唱に編曲して演奏)

曲は五つの章から成り立っていて、阿蘇に降った雨が、せせらぎとなり、川となり、流域の風物と人々の暮らしを映しながら、大河となって有明海に出てゆく迄を、自然と人間の調和の"讃歌"として歌い上げる。

丸山さんの詩の、一見平易でいながら深い内容を湛(たた)えた本質に共鳴して、作曲も甚(はなは)だ平易に、しかし骨格を大切に考える方法をとった。

この曲は九州の一角に生まれ、その後の二十数年のうちに全国的に歌われ、広がって行った。

その事自体に、雨の一滴が大河となって海へ出て行く姿を見る思いに捉(とら)われるのは、作曲者としての感慨だけだろうか。

1990年1月 團 伊玖磨

参考資料《筑後川》 出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

筑後川(ちくごがわ)は、阿蘇山を水源として九州地方北部を東から西に流れ有明海に注ぐ川である。
流路延長 143.0 キロ、流域面積約 2,860 平方キロの河川で規模としては九州地方最大の河川である。
利根川(坂東太郎)・吉野川(四国三郎)とともに日本三大暴れ川として、筑紫次(二)郎の別名がある。
筑後川の分水界は、上流部では阿蘇外輪山の北麓を主体としており、瀬の本高原より筑後川本流が源を発している。阿蘇外輪山北麓に降った雨は概ね筑後川あるいは玖珠川に合流する。
筑後川本流は上流より田の原川・杖立川・大山川・三隈川と名を変え、大分県日田市の花月川合流点より筑後川の名称になるが、河川法上では田の原川源流の瀬の本高原から流れる河川が筑後川である。

《 男声合唱を楽しむ会の歩み 》

男声合唱を楽しむ会は、かつて職場などで経験した合唱の楽しさをもう一度味合おうと、2003年（平成15年）に結成され、愛知万博 おまつり広場で初公演をしたのを機に毎年公演を行っています。
初心者からベテランまでの巾広い年齢層による一般の男声合唱同好会として月2回の練習例会と、年１回以上の公演活動を行っています。
毎年行う6月の創立記念合宿、8月の合宿を始め、新年会、夏の懇親会など、年齢を忘れて合唱活動を楽しんでいます。

第４回シニアコーラス交歓発表会
2012年３月６日

○2003年4月　第一回設立準備委員会開催
○2003年6月　第一回練習開催
○2004年8月　「音の交流会」開催：三菱重工 健保会館
○2005年4月　指揮者「向川原 慎一」先生招聘
○2005年9月　愛知万博「『あいち・おまつり広場』公演
○2006年8月　「第1回 ファミリー合同練習会」開催：名古屋市音楽プラザ
○2007年8月　「第2回 サロンコンサート」開催：名古屋市音楽プラザ
○2008年9月　「第3回 サロンコンサート」開催：名古屋市音楽プラザ
○2009年3月　「第1回 シルバーコーラス交歓発表会」出演：中京大学文化市民会館
○2009年11月　「第4回 サロンコンサート」開催：名古屋市音楽プラザ
○2010年3月　「第2回 シニアコーラス交歓発表会」出演：中京大学文化市民会館
○2010年10月　「第5回 サロンコンサート」開催：名古屋市音楽プラザ
○2011年3月　「第3回 シニアコーラス交歓発表会」出演：中京大学文化市民会館
○2011年12月　「第6回 サロンコンサート」開催：名古屋市熱田文化小劇場
○2012年3月　「第4回 シニアコーラス交歓発表会」出演：中京大学文化市民会館
○2012年10月　「第7回 サロンコンサート」開催：名古屋市熱田文化小劇場

《 愛知万博／ファミリー合同練習会 》

職場合唱時代の仲間であったり、会員の家族又はその知り合いの方々で2005年の愛知万博公演／2006年のファミリー合同練習会に参加して一緒に歌って頂いた女声約40名の中から、17名の有志の皆さんに本日の合同演奏に参加を頂きました。

出演者：

足立淳子　伊藤正子　岩崎芳子　大西雅子　神原佐代子　斎藤美代子　坪井真由美　富田恭子
中埜京子　長橋千鶴子　橋本益子　古一令子　間宮幸子　三宅善子　森つた子　山北桂子
吉川啓子

《 会内指揮者 》 小平康義

長年に亘って職場合唱で混声合唱の指揮を担当し、合唱を通じて多くのOG、OBが影響を受けた。筆者もその一人である。
音楽理解と発声、歌唱には独特のものがあり、限りなく合唱を愛し、歌う喜びを感じさせる根っからの合唱人である。
当会においては豊富な合唱経験、指揮経験を生かして会内指揮者として力を尽くし、高い信頼のもとに活動の原動力となっている。会の目標、理念を地で行く人、そのものである。

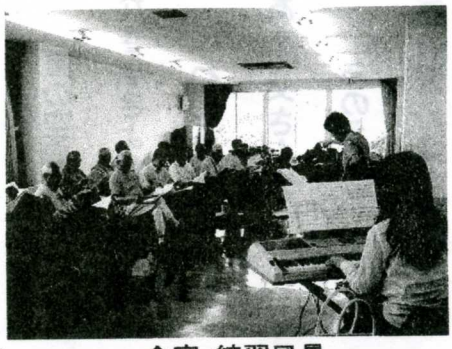
《 役 員 》

■ 会　長 ： 藤野　倫男
■ 副会長 ： 大嶋　順治
■ 総　務 ： 岩崎　幸男
■ 会　計 ： 岩田　照雄
■ 渉　外 ： 岩田　照雄
■ 広　報 ： 木村　幹夫　石田　重夫
■ 楽　譜 ： 木村　幹夫
■ パートマネージャ ：
（T1） 岩田　照雄　（T2） 堀尾　貞臣
（B1） 古賀　寛哉　塚原　徹也　（B2） 大嶋　順治　城戸　俊輔
■ 技　術（会内指揮者）： 小平　康義　岩崎　幸男

《 出演者名簿 》

T1 ：	青島ゆみを	井田　三郎	岩田　照雄	小平　康義	
	橋本　光正	三宅　宏幸	横田　勉	向後　宣彦	（8名）
T2 ：	大河内康二	高瀬　幸夫	林　光明	堀尾　貞臣	
	横井　邦明				（5名）
B1 ：	石田　重夫	伊藤　和久	岩崎　幸男	生越　英三	
	古賀　寛哉	塚原　徹也	藤野　倫男	吉村　洋和	（8名）
B2 ：	遠藤　恭之	大嶋　順治	城戸　俊輔	神谷　秀雄	
	木村　幹夫	田中　昭	寺田　義幸		（7名）

創立記念合宿 岡崎桑谷山荘
2012年6月2～3日



合宿・練習風景
岡崎桑谷山荘

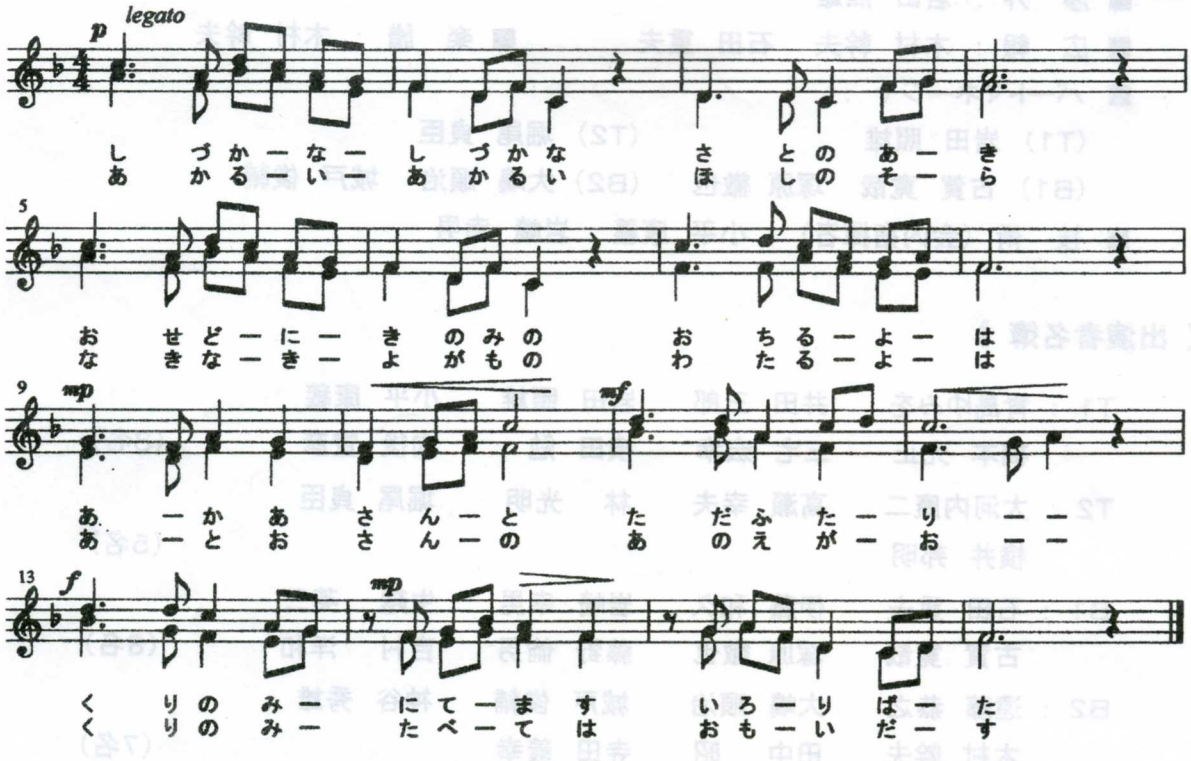
●●● 会員募集中　いっしょに歌いませんか？ ●●●

・練 習 日 ： 月2回（第2、4土曜日 13:00～16:30）
・練習場所 ： 名古屋市音楽プラザ（金山）大リハーサル室
・会　　費 ： 2,000円／月（学生 免除） 入会金 1,000円
・会の理念 ： 歌をこよなく愛し、何時までも若々しく、お互いがお互いを理解し合い、歌を通じて健康で明るく豊かな人生を送る。
・会の目標 ： より深く、熱い情熱を持って自分たちの音楽を模索し続け、他に類のない合唱団を目指す。
・問合せ先 ： 岩田照雄（090-5094-4773）

《 全員合唱 》

里の秋

斎藤 信夫 作詩
海沼 実 作曲



一 しずかな しずかな
里の秋
おせどに 木の実の
落ちる夜は
ああ 母さんと
ただふたり
栗の実 にてます
いろりばた

二 あかるい あかるい
星の空
なきなきよがもの
わたる夜は
ああ 父さんの
あのえがお
栗の実 たべては
思い出す

●●● 創立10周年記念コンサート(予告) ●●●

・日時:平成25年9月29日(日) 13:00 開場 13:30 開演 15:30 終演
・場所:熱田文化小劇場 ・入場:無料
・プログラム
♪第1ステージ:男声合唱愛唱曲 これまでの発表曲から選ぶヒットアルバム
落葉松 からたちの花 婆やのお家 ふるさと 進めわが同胞よ 他
♪第2ステージ:男声合唱組曲『犀川』より 時無し草 林の中 松の花 他
♪第3ステージ:My song / Your song みんなで歌おう
♪第4ステージ:男声合唱組曲『雨』より 雨の来る前 武蔵野の雨 雨の日に見る 雨 他
♪第5ステージ:ピアノと弦楽器の響きに載せて歌う日本の歌
荒城の月 早春賦 浜辺の歌 田植え歌 島原の子守唄 箱根八里 雪の降る街を 他
・混声合同演奏:川の流れのように みんなの歌 他
・会場合同合唱:花

♠演奏曲目は変更になる場合があります